

大学生の精神的健康を促進する心理学的援助の精緻化に関する研究

著者	入江 智也
学位名	博士（臨床心理学）
学位授与機関	北海道医療大学
学位授与年度	令和元年度
学位授与番号	30110甲第334号
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00064821/

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院心理科学研究科長 殿

主査 富家直明



副査 中野倫仁



副査 坂野雄二



副査 永作稔



このたび 入江 智也 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い、下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 大学生の精神的健康を促進する心理学的援助の精緻化に関する研究
- 2 論文要旨 別添

3 学位論文審査の要旨

大学生の精神的健康に影響を及ぼす認知行動的変数を明らかにし、心理学的介入法を精緻化することを目的として全6章からなる博士論文が提出された。第1章では、大学生の精神的健康に関する問題をレビューし、大学生の精神的健康が中途退学に及ぼす影響および学生相談機関による援助の効果と限界点がまとめられるとともに、大学生の精神的健康に影響を及ぼす認知行動的変数を特定し、心理学的介入法を精緻化することの意義が書かれた。第2章では、大学生の精神的健康が中途退学に及ぼすリスクについて生存時間分析を用いた分析が行われた（研究1）。1年次大学生399名を対象とした4年間の追跡調査の結果、精神的健康に関する問題を抱える大学生はそうでない大学生よりも退学のリスクが2.56倍上昇した。第3章では、学生相談室の利用が大学生の精神的健康に及ぼす影響について分析し（研究2）、スクリーニング基準を超えた大学生40名を4年間追跡調査したところ、学生相談室の利用回数と精神的健康の因果関係が見られなかった。そこで、第4章では、大学生の精神的健康に影響を及ぼす認知行動的変数についてメタアナリシスを実施し大学生の精神的健康に強く影響している要因を特定した（研究3）。その結果、注意、思考、行動の3つの変数は、大学生の精神的健康と相関があること、3つの変数はそれぞれ精神的健康の異なる側面と関連しているものの、変数間で精神的健康に対する影響の強さには大きな差異がないことを明らかにした。第5章では、認知行動的心理学的介入プログラムを作成し、効果検証を行った（研究4）。作成した介入プログラムについて、統制群との比較に加え、マインドフルネスストレス低減法および行動活性化療法との比較を行った。大学生42名を参加者として各群に割り付けを行った。その結果、作成した介入プログラムは、統制群と比較して精神的健康の促進効果が大きいこと、既存の介入法と比較して社会生活機能の改善効果とウェルビーイングの向上効果が大きいことを明らかにした。第6章では、それぞれの研究の成果を概観し、大学生の精神的健康の促進のために、注意、思考、行動の変数に焦点を当てた認知行動療法を実施することが有効であること、精神的健康の促進を目指したサービスを充実

させることは、大学生の望まない中途退学の防止をはじめ、多様な学生が在籍する今日の大学における就学環境を整えるために重要であること等が提言された。

以上の要旨を持つ入江論文に対して、予備審査、公開発表会、個別の審査会が行われた。予備審査では、審査委員より、いくつかの指摘がなされ、それぞれ適切な修正がなされた。例えば、用語の概念の整理や、定義に関する修正がなされ、また、UPIを使用する意義などが補強された。公開発表会において、上述の説明や、各種の議論、そして今後の展開に関しての広範囲にわたる議論が活発に行われた。

尚、本研究の一部分は、以下のようにすでに査読付き雑誌に掲載されている。

(1) 入江智也・丸岡里香(2017) 大学入学時におけるUPIのkey項目への該当および居住形態が退学リスクに及ぼす影響—生存時間分析を用いた検討— 学生相談研究, 38(1), 1-11.

(2) 入江智也・丸岡里香・坂野雄二(2019) 学生相談室の利用が大学生の精神的健康に及ぼす効果—4年間の追跡調査による検討— CAMPUS HEALTH, 56(2), 192-198.

(3) Irie, T., Yokomitsu, K., & Sakano, Y. (2019) Relationship between cognitive behavioral variables and mental health status among university students: A meta-analysis. PLOS ONE DOI:10.1371/journal.pone.0223310

以上のことを総合して考えると、入江氏の論文は大学生の精神保健に関する研究と実践のレベルを格上げする良作であって、その学術水準は十分に高度であることは自明である。

4 最終試験の要旨

最終試験では、学位論文の内容に関する口頭発表及び質疑応答を行うとともに、申請者のこれまでの研究業績を精査し、さらに、外国語を含む専門的知識と技術に関して口述試験を行った。その結果、申請者は研究を遂行する能力が十分にあるとの判断に至った。

以上の結果 入江 智也 は

博士（臨床心理学）の学位を授与する資格の

ある

ない

もの

と判定する。